

光陽工業(KYMCO)

光陽工業(Kwang Yang Motor Co., Ltd.: KYMCO)は、台湾で二輪車販売シェア4割を占めるトップメーカーで、世界100ヵ国以上で55~70万台を販売、売上高は年間10億ドル。同社は、1964年に本田技研工業と技術協力契約を締結し、主にホンダブランド製品の製造・販売を開始、1982年に本田技研工業が22.5%出資した。1992年に国内外に自社製品を販売するため、KYMCOブランドを立ち上げた。本田技研工業とは、1995年に技術提携、2003年に資本提携を解消。海外事業においては、1993年に中国、1996年にインドネシア、2005年にベトナム、2008年にフィリピンに生産拠点を設立し、海外生産を開始・拡大してきた。2018年現在、スクーターを中心にKYMCOブランドの製品を108ヵ国で販売、これまでスクーター販売シェアにおいて、スペインとドイツでトップ、イタリアで3位となっている。

同社は、2018年に電動二輪車の総合ソリューションiONEXを展開し、今後、電動二輪車事業に注力する。iONEXはプラグ式の充電と着脱式バッテリーの交換充電を併用する電動パワートレインシステムと着脱式バッテリーの交換ステーションシステムで構成されるKYMCO自社開発の二輪車の電動化プラットフォーム。台湾のGogoroと同様のシステムであるが、着脱式バッテリーの小型・軽量化し、女性でも使い勝手のよい重量とサイズにしている。iONEXモデルのNice 100 EVの価格はTWD61,800(222,480円)で、Gogoroの廉

【光陽工業、電動二輪車事業動向と計画】

▽電動二輪車の総合ソリューション iONEX

光陽工業は、2018年3月、電動二輪車の総合ソリューションiONEXを発表。iONEXは、プラグ式の充電と着脱式バッテリーの交換充電を併用する電動パワートレインシステムと着脱式バッテリーの交換ステーションシステムで構成されるKYMCO自社開発の二輪車の電動化プラットフォーム。

Ionexの電動パワートレインは、コアバッテリー1個と着脱式バッテリー2個を搭載。コアバッテリーについては、家庭用充電器を利用したプラグ式充電が可能のほか、充電が切れた場合には着脱式バッテリーから電力が供給される。着脱式バッテリーについても、専用の充電器により家庭充電が可能のほか、iONEX専用のバッテリー交換ステーションで満充電のバッテリーと交換することが可能。家庭充電と、外出先での待ち時間の無いバッテリー交換を併用することで、ユーザーの利便性を高める狙い。また、着脱式バッテリーは、小型軽量化しており、Gogoroの同バッテリーに比べて重量を半減の5kgとして、女性でも使い勝手のよい重量とサイズにしている。

同社は、2018年8月、初のiONEX対応モデルNew Many 110 EVを発売したほか、同年10月にNice EVも投入。2018年央からの向こう3年間で、New Many 110 EVとNice EVを含め、10種類のEVスクーターを投入する計画。

バッテリー交換ステーションについては、2018年秋に約350ヵ所整備、今後、1,000ヵ所に拡大する計画。同ステーションの設置費用は約300万円だが、台湾政府が設置費用の50%を補助。

バッテリーのレンタル料金は、基本走行距離1,000kmまでの月間料金はTWD299(約1,080円)。

▽Nice 100 EVの概要

- ・価格：TWD61,800(約222,480円)
- ・全長×全幅×全高：1710×650×1010mm
- ・ホイールベース：1200mm
- ・車両質量：87kg・最高速度：45km/h
- ・インホイールモーター 最高出力：1.5kW、最大トルク：50N・m
- ・航続距離：95km(コア25km+交換式2個各35km)
座席下に予備2個収納可能でプラス70km走行可

▽Ionexの海外展開

光陽工業は、海外でもIonexを展開する計画で、2019年以降、インド、中国、ベトナム、フィリピンなど世界20ヵ国で立上げる予定。

インドでは、現地の電動二輪車のスタートアップ TwentyTwo Motors Pvt. Ltd.と資本(25%出資)・業務提携し、2019年に電動スクーター事業を立ち上げる(2018年10月発表)。同社は、2019年から2021年にかけて、6,500万ドルを投資してTwentyTwo-KYMCOブランドを立ち上げ、Ionexのステーションを整備し、Ionex対応モデルを投入する計画。Ionex対応製品はTwentyTwoのRajasthan州Bhiwadi工場生産、2019年から2021年までの3年間で50万台を生産する計画。

販売は、2019年からNew Dahiを皮切りに開始し、Jaipur、Gurugram、Pune、Hyderabad、Bangaloreなどで順次拡大する予定。販売価格は、ミドル/ハイエンドの内燃機関スクーターの価格50,000~60,000ルピー(約80,000~96,000円)より高い74,740ルピー(約120,000円)となる予定。

＜東京二輪車ショー2019、Nice 100 EV(左)、交換式バッテリー(中央)、交換式バッテリーステーション(右)の展示＞



交換式リチウムイオンバッテリーはステップボード下に2個収納。電池容量は0.65kWhで、電池パックは内製。セルは、LG Group、Samsung、パナソニックなど複数から調達している模様。

(光陽工業広報資料、各種報道、東京二輪車ショー2019でのヒアリング情報より作成)